

留学生支援コンソーシアム大阪 2022 年度 5 月総会（議事概要）

日 時：令和 4（2022）年 5 月 12 日（木） 15：30～17：15

場 所：アットビジネスセンター心斎橋駅前 604 号室

参 加 者：別紙「参加者名簿」のとおり

司会者挨拶

（事務局 田中）

- ・本日の参加者はリアル、オンライン合わせて約 200 名
- ・私どもの活動を広く知っていただくため、本日の会議は、YouTube でもリアルタイム配信している。（アーカイブ動画は下記より情報共有している）

◆第 1 部 https://youtu.be/GrgMPc6q_fE

◆第 2 部 <https://youtu.be/PpNuXlw3Ayc>

- ・本日は第 1 部と第 2 部に分けて行う。
第 1 部では基調講演及びトークセミナーを、第 2 部では留学生支援コンソーシアム大阪の 2022 年度 年間活動計画の発表を行う。

第 1 部 外国人留学生エキスポセミナー

1 基調講演

（大阪観光局 溝畑理事長）

「アジア No. 1 の留学生都市 実現戦略」（資料 1）に基づき講演

2 トークセッション「留学生支援の未来像」～入国緩和による最新動向～

（事務局 田中）

- ・留学生支援の最前線でご活躍の次のお三方にご登壇いただく。
ホツマ・インターナショナルスクール 白木寛和大阪校・名古屋校校長
学校法人エール学園 西村康司キャリア支援本部長
森興産株式会社 森隼人代表取締役（オンライン参加）
- ・このトークセミナーの開催にあたり、皆様の関心が高いと思われる質問事項を集め、お三方のお考えをお伺いしたい。
留学生の環境が今どうなっているのか、皆様の参考にさせていただければと思う。

① 入国緩和前（過去 2 年間）の留学生・送り出し機関との対応・調整

Q コロナによる留学生の入国制限がされていた約 2 年間、入国できない留学生に対して、さまざまな対応をされてきたと思う。

日本へ留学生を送り出す現地の機関との調整なども含めて、対応されたことなどをお聞かせいただきたい。

（白木氏）

日本語学校によって対応が異なるが、オンライン授業をするかしないかで対応が違った。我が校はオンライン授業を一切しなかった。

なぜならば、日本語をただ勉強するためではなく、日本に来て授業を体験することの対価が授業料という考えを堅持しているためである。オンラインの授業については無料で提供していた。

なお、現地の留学エージェントとは緊密に連携を取っていた。

(西村氏)

中国、ベトナム、韓国には現地スタッフがおり、SNS やオンラインで授業を提供していた。

また、ベトナム・ダナン大学とはオンライン交流を行っており、現地の日本語教育機関との連携も続けていた。

(森氏)

4 月に 2 年ぶりにベトナムに行った。留学エージェントや企業の人達と話をした。

コロナ禍で留学生を日本に送り出すことができず、中小の留学エージェントでは廃業又は倒産しているところが多かった。

大手企業が残った。それら大手企業は、今までライバル関係にあったにも関わらず相互に連携し出すようになり、送り出す仕組作りを相互に構築し始めていた。

今後は、このような現地機関との連携が不可欠と思われる。

一方、日本にいる学生は帰国できず、家族に会うことができない不安感を持つ学生が多い。コロナ禍が空けた後、どうしていくのかを考えなければならない。

② 入国緩和後の留学生受入れ状況

Q 5 月までのそれぞれの学校での留学生の新規入学状況、どのようなスケジュールや人数で、現在入学しているのか？

最新の現場の状況を教えていただきたい。

(白木氏)

我が校は 4 つの学校があり、480 名の留学生が入国を待っていた。4 月末で 210 名が入国。そのうち、大阪は 120 名中 54 名。

現場は大混乱である。

入国のスケジュールがあってないようなもの。航空券が手に入ればすぐ日本に来る。こちらでコントロールができない。

また、日本の地理が分からないための混乱もある。

岐阜へ行くよう指示し、岐阜羽島駅でスタッフが待っていたが、新大阪駅まで行ってしまったという留学生もいた。

(西村氏)

台湾、韓国、中国、インドネシア、ベトナムの 140 名が入国した。5 月には 15 名が入国。

現場が大混乱しているというのは同じ。

隔離期間が分からず学校に来てしまうという学生も多い。

Q 今後の受入れ予測（人数・国）はいかがか？

年内・来年度以降など、現時点での予測で結構なのでお聞かせいただきたい。

(白木氏)

ミャンマーやスリランカからの問い合わせが多い。

ミャンマーは政治的な混乱から、また、スリランカは経済的な混乱から、日本へ行きたいとの希望を持っているようだ。来年、それらの国では日本留学ブームが来るのではないか。

(西村氏)

ベトナムでは、日本が留学希望先のナンバー1 ではなく、韓国になってきている。

産官学によるプロモーションを提案したい。

日本の入国の緩和は伝わっているが、韓国の方がアグレッシブな集め方をしている。

Q 受け入れが始まって色々と課題もあるかと思うが、現状での課題があれば、また、その課題への対応策もお聞かせいただきたい。

(白木氏)

職員の対応・投入で対応している。対応できる人材の採用・登用をしているが、他の機関との取り合いになっている。

(西村氏)

航空便の変更が多く、計画的な対応が立てられない。

関空に迎えに行くのだが、東京に着くため、迎えに行けない。航空便は関空に来てほしい。

**Q 森様は先日ベトナム現地に行かれてたとのこと。
ベトナムでの様子・声はいかがか？**

(森氏)

4 月末にベトナムに行った。

ようやく、日本に行けるという期待感を感じた。

空港は、技能実習生であれば同じ制服を着た人達で、また、学生であれば同じ学生服を着ている人達であふれ、家族や友人との別れを惜しんでいた。

ところが、学校関係者に聞くと、行き先が全て日本かという疑問。韓国に変更する人が多くなっているという。

③入国・入学した留学生の状況

Q 現在、学校では授業はどのように実施しているのか？

(白木氏)

リアル授業を実施

(西村氏)

分散登校を実施。早く、全面登校に変更したい。

**Q 入学後すぐの留学生の困り事は、どういうものがあるか？
また、学校が実施している対応策があればお聞かせいただきたい。**

(白木氏)

入国後、銀行口座の開設が必要になってくる。ところが、留学生には制限されているように思えて仕方ない。

日本人なら簡単に口座を開設できる。しかし、留学生はなぜか、日本人スタッフ

と一緒に来てほしいといわれる。あるいは、時間帯を指定され、人数制限を課される。

このような対応を見て、留学生はどのように感じるだろうか。

(西村氏)

隔離期間が国によって異なる。

アルバイト先を見つけることが難しい。

④留学生の受入れ先・送り出し機関としての学校が、自治体や事業者を求めるサービスとは？

Q 留学生の受入れ先、あるいは、留学生が学んだ後卒業生として送出す機関となる学校や支援団体として、自治体や企業等にやってもらいたいサービスなどがあればお聞かせいただきたい。

(森氏)

仕事先の開拓であり、すそ野を広げる必要がある。

まず一人を採用してもらうこと。一人目を採用すれば、5名まで増えるといわれている。一人目の壁を乗り越えることである。

さらに、地域への定着である。大阪に来てもらい、滞留人口を伸ばすこと。次の人達も来やすい。

これらのことは、民間企業だけで実施するのは難しい。行政やこのコンソーシアムを使って実施すべき。

(西村氏)

就労ビザの緩和のため、特区にチャレンジしてほしい。

技術、人文知識、国際業務に制限されている就労ビザの職種を取り払ってほしい。

もう一点は、インドネシアやベトナムへのプロモーションに取り組んでほしいことである。

(白木氏)

日本を留学先として選ぶためには、二点が必要。

まず、第一点は行政サービスの円滑化・効率化とDXである。

もう一点は、就職先が見えるようにすることである。

就職先が見えると、そこからの逆算し、専門学校・大学に行こうとの動機が生じ、そのためには日本語学校へ行こうという動機が生まれるからである。

⑤質疑応答

Q 現地の留学エージェントが相当痛んでおり、その結果、日本への興味を持つ人が相当減っているとのことだが、どのような状況なのか？

また、それを盛り返すために、どこに力を入れるべきか？

(西村氏)

ベトナムが痛んでいるように思われる。産官学のプロモーションを実施する必要がある。

(白木氏)

ベトナムが韓国に傾斜しているのは確か。

その他の国では、留学生の紹介があり、入学に至れば紹介料を払うというのが一般的。その紹介料の請求が早くなってきた。つまり、現地の留学エージェントが窮

していることが推察される。

（森氏）

中小の留学エージェントはほとんどがダメになった。

残ったのは大手だけといえ、その大手は現地で連携を始めている。同様に、日本でも連携を進め、連携している現地と連携すべき。

一方、留学生から不当に高い手数料を取っていた中小の留学エージェントは淘汰され、ホワイトなところだけが残ったのではないか。そのような留学エージェントと連携すべき。

（事務局 田中）

シティプロモーションの重要性・必要性を痛感した。

大阪は万博開催というアドバンテージがあるので、それを活かしたい。